

森泉荘だより

第7号

H. 2. 8. 1

題 二 題

庄 司 善 男

◎土用丑の日

今年の土用は、七月二十日
から八月七日（八日は立秋）
までである。この期間に「丑の
日」は七月二十三日と八月四
日であるので「丑」が二匹、
入っていることになる。

この時季は一年で最も暑熱
（あつさ）がきびしく夏の疲
れが出るころであることから、
昔からシヨウブやイヌノヘ（
ドクダミ）などを入れて「丑
湯治」をしたり「うなぎ焼き
」を食べて、体力の衰えを防
ぐ習慣が今も残っている。防
ちなみに「うなぎ焼き」は、
その昔、平賀源内や太田蜀山
人が知り合いのうなぎ屋が夏

場、あまり暇なのを見て、客
寄せに「土用丑の日」と大き
く書いて店先にブラ下げたの
が始まりと言われているが、
これは定かではない。大量の
ある大名から大量のかば焼
きの注文を受けたうなぎ屋が
子の日、丑の日、寅の日の三
日ばかりで焼いたところ、子
の日と寅の日の分は傷んでし
まったが、丑の日に焼いたも
のだけは、おいしく食べられ
たと言う。

森泉荘でも七月二十三日は、
幸い七月生まれの方々の誕生
会であったので昼食に「うな
井」を出したところ、利用者
により、「八月四日（丑の日）
」にも食べたいものだなあ。

子供を小川に例え、大人を
大河に例えるならば、メダカ
と鯉のようなものである。要
するに、人はみな必ず年寄り
にならなくてはならない。そ
ものが、完全には洗練され行
間のないが、かと言って
子供のようには未開でもない。
そういう微妙な位置にいるお
敵じやないか」と思う。昨今
で

（森泉荘施設長）

との声が食堂のあちこちから

聞こえてきた。

◎若い人と 老老人

久しぶりに上京したので銀座
を歩いてみた。若い人、若い
人があまりにも多けて驚い
た。非常に身に付けているも
のが、非常にハデであるが格好
よく、「これが洗練された都
会で生活している若人だなあ
と再認識した」と同時にこの若
人の大方が田舎育ちでないか
とも思った。

たまたま、喜寿を過ぎたと思
われる夫婦と同席することが
できたので、あれこれと語り
合おう。動作が少しカンマンで
あるが飾りけのない夫婦は、
もの静かな口調であったが、
「生きる喜び」を私に語って
くれた。そして下車寸前に、
「あなたは、老人をどう思い
ますか」と問われたが時間が
なかつたので「これから健康
康で長生きして下さい。」と
言って別れた。

意義のある自由

小林和子

時は七月十二日木曜日、天気晴れ、当初予定していた二名の利用者のうち一名が当日になると、行きたくないといふので、松橋宇市さんに決定本人も動ぜず行ってみると言う事、新林キヌさんと運転者、指導員、寮母の五名も発する事にした。前準備も怠りなく、車椅子、ポータブルトイレ、バケツ・ボウ・等々を持参、左半身不自由な新林さんは「こんなザマして迷惑かけるばてな」と申し訳なかりながら心はウキウキ。楽しんでる。

宇市さんは笑顔も良く、着替えも介助してもらいながら素早い身のこなし、どんなにか外に出かける事を嬉しいと思つていられた。マザマザと見せつけられました。

バスに五名だけ乗り、寮母、看護婦に見送られての出発は、気持ちの良いものでした。

まず米内沢の「浜辺の歌音楽館」に行き、車椅子で二階へ。車椅子の階段の上り降りは並大抵のものではありませぬ。運転者、指導員の男の

力には敬服致しました。車中からは花を眺め、景色を眺めているうちに「大太鼓の館（鷹巣町）」に着く。宇市さんの娘さん夫婦が面会に来てくれ、感激する。森泉荘出発前に「鷹巣さ、教えればいいのよ」と娘に会いたが「いいのよ、対して長い気がつかないです。連絡していただくこと。」と娘さん。しばし親子の情景が目につきまします。

車椅子で館内を見学、大太鼓の映画を見てダイナミックなスクリーン、大音量にもびつくりすることなくじつとみつめ、「いいな、楽しいな」と歌いだす新林さん、スクリーン、の奴踊りを見て「シッサー、シッサー」とかけ声を出し、宇市さんは若い頃の手を思い出し、少し震えながらも二回も太鼓を叩いた事、すばらしい体験だったようです。

二人とも排泄面も心配なく、館ですませ、食堂に入り二人でメニューを決定、おいしくいただきました。森泉荘の本家であ

ります。青山荘に休憩に行きました。

「さすがに疲れた様子でした。青山荘の話をしたりゆつくり利用者となつたり、テレビをりたり横になつたり、時間を過ぎ見たりで心地よく時間を過ごしました。帰りの車中でも「良かったよ」「おもしろかった」「百ま生きる」と元氣ぶりを示す。

今、思うこと

石川 眞利子

森泉荘が開設して今年で八年目です。もう七年も経過したのかと思うが、昭和五十八年四月一日が、昨日のことのようです。

職員をスベシヤリストとするには、充分な時間ですが、我を振り返るとき、果たしてしろ開設当時から、目標を高く持ち、努力して来たように思っています。かと言って現在、努力していかないわけではありませんが、日常の業務に流され、今来た道を振り返り、反省し、そして改善しようとする気持ちを忘れていないように

少人数で出かけるので、かゆいところまで手が届き、安定した処遇ができて、行つて来た事に、お話しが、行つて来た関係付けが、できる、生活が楽しく、生きるための活力を養う様な自由ドライブでありました。このような意義のある自由ドライブのつき添いをして、本当に良かったと思いません。

(寮母)

当初高い目標を持っていた私、月日の流れに負け、その目標を持ち続けることは、ほとんど不可能となりました。目まぐるしく変わる情報を私の中で消化できず、そして新しい情報が入って来る、その繰り返しのうち、自分に負けてしまつたやうです。

森泉荘も、もうすぐ十年を迎えます。これからの特別養護老人ホームの行く先は決まっています。楽観できないものがあります。が、これを機会に、常に初心に返つて学んでいきたいと思

(事務員)

★厚く御礼申し上げます

平成元年一二月

平成二年六月

奉仕
慰問

一二月 七日 前田保育所
一二月 九日 美容師組合
一月 四日 巻渕婦人会
四月 二日 前田更生保護
四月 二五日 婦人会
神成婦人会

善意

阿仁美容師会前田地区
長内 暁子
佐藤 子
工藤 子
佐藤 子
白藤 子
鈴木 子
鈴木 子
岸藤 子
吉田 子
日本たばこ大館営業所
伊藤 子
藤 子

巻渕婦人会 史子
前田母子会 史子
前田保育所 史子
鈴木 鉄雄
前田更生保護婦人会
吉田 農協スツパナ
前田 農協スツパナ

柳山 卯一郎
柳山 善一郎
下山 孝夫
森吉町商工会婦人部
敬称は略させていただきます

本林百承社社員日記

〇平成一一年

《二月一日》 雛祭り行事。前田保育所園児作成の内裏雛をいた

《二月二日》 映画会「銭形平次」

《二月三日》 三月二二日

《二月四日》 三月二二日

《二月五日》 三月二二日

《二月六日》 三月二二日

《二月七日》 餅つき大会。お供えを作り、きなこやアッコで食べる。

《一月四日》 新年会。宝引き大会。童心に帰って楽しむ。

《一月一日》 映画会「青い山脈」

《二月一日》 節分行事。職員による朗読劇実施。

《二月十五日》 衆議院議員不在者投票

《三月一日》 雛祭り行事。前田保育所園児作成の内裏雛をいた

《三月二日》 映画会「銭形平次」

《三月三日》 三月二二日

《三月四日》 三月二二日

《三月五日》 三月二二日

《三月六日》 三月二二日

《三月七日》 三月二二日

《三月八日》 三月二二日

《三月九日》 三月二二日

《三月十日》 三月二二日

《三月十一日》 三月二二日

《三月十二日》 三月二二日

《三月十三日》 三月二二日

《三月十四日》 三月二二日

《三月十五日》 三月二二日

《三月十六日》 三月二二日

《三月十七日》 三月二二日

《三月十八日》 三月二二日

《三月十九日》 三月二二日

《三月二十日》 三月二二日

《三月二十一日》 三月二二日

《三月二十二日》 三月二二日

《三月二十三日》 三月二二日

《三月二十四日》 三月二二日

《三月二十五日》 三月二二日

《三月二十六日》 三月二二日

《三月二十七日》 三月二二日

《三月二十八日》 三月二二日

《三月二十九日》 三月二二日

《三月三十日》 三月二二日

《四月一日》 三月二二日

《四月二日》 三月二二日

《四月三日》 三月二二日

《四月四日》 三月二二日

《四月五日》 三月二二日

《四月六日》 三月二二日

《四月七日》 三月二二日

《四月八日》 三月二二日

《四月九日》 三月二二日

《四月十日》 三月二二日

《四月十一日》 三月二二日

《四月十二日》 三月二二日

《四月十三日》 三月二二日

《四月十四日》 三月二二日

《四月十五日》 三月二二日

《四月十六日》 三月二二日

《四月十七日》 三月二二日

《四月十八日》 三月二二日

《四月十九日》 三月二二日

《四月二十日》 三月二二日

《四月二十一日》 三月二二日

《四月二十二日》 三月二二日

《四月二十三日》 三月二二日

《四月二十四日》 三月二二日

《四月二十五日》 三月二二日

《四月二十六日》 三月二二日

《四月二十七日》 三月二二日

《四月二十八日》 三月二二日

《四月二十九日》 三月二二日

《四月三十日》 三月二二日

《五月一日》 三月二二日

《五月二日》 三月二二日

《五月三日》 三月二二日

《五月四日》 三月二二日

《五月五日》 三月二二日

《五月六日》 三月二二日

《五月七日》 三月二二日

《五月八日》 三月二二日

《五月九日》 三月二二日

《五月十日》 三月二二日

《五月十一日》 三月二二日

《五月十二日》 三月二二日

《五月十三日》 三月二二日

《五月十四日》 三月二二日

《五月十五日》 三月二二日

《五月十六日》 三月二二日

《五月十七日》 三月二二日

《五月十八日》 三月二二日

《五月十九日》 三月二二日

《五月二十日》 三月二二日

《五月二十一日》 三月二二日

《五月二十二日》 三月二二日

《五月二十三日》 三月二二日

《五月二十四日》 三月二二日

《五月二十五日》 三月二二日

《五月二十六日》 三月二二日

《五月二十七日》 三月二二日

《五月二十八日》 三月二二日

《五月二十九日》 三月二二日

《五月三十日》 三月二二日

《六月一日》 三月二二日

《六月二日》 三月二二日

《六月三日》 三月二二日

《六月四日》 三月二二日

《六月五日》 三月二二日

《六月六日》 三月二二日

《六月七日》 三月二二日

《六月八日》 三月二二日

《六月九日》 三月二二日

《六月十日》 三月二二日

《六月十一日》 三月二二日

《六月十二日》 三月二二日

《六月十三日》 三月二二日

《六月十四日》 三月二二日

《六月十五日》 三月二二日

《六月十六日》 三月二二日

《六月十七日》 三月二二日

《六月十八日》 三月二二日

《六月十九日》 三月二二日

《六月二十日》 三月二二日

《六月二十一日》 三月二二日

《六月二十二日》 三月二二日

《六月二十三日》 三月二二日

《六月二十四日》 三月二二日

《六月二十五日》 三月二二日

《六月二十六日》 三月二二日

《六月二十七日》 三月二二日

《六月二十八日》 三月二二日

《六月二十九日》 三月二二日

《六月三十日》 三月二二日

▲ 昨年度は短期入所の利用者が急増した。老人に対しての福祉制度が理解されてきた。現れだそうか。それとも老人と家族を取り巻く問題が表面化してきた。だるうか。

♥ 一二月から六月までのあいだに九名の方が入所された。元気に長生きして頂きたいものである。

◆ 個室及びデイサービス・ルームの入り口の工事が終了した。今までは、ベットの出し入れもままならなかったが、今ではスムーズに出し入れできる。入口が広くなくなったせい、部屋自体が明るくなり、広々とした感じがする。

♣ 本年もサマショート・ボランティアが七月三〇日から始まる。それに先立ち、森吉中学校の女生徒一五名が五班に分かれて、一日ずつ、体験を兼ねたボランティアに来荘する。

※ 施設に対する理解障害を持つ人への理解を是非深めてほしいと願っている。八月はボランティア・実習での来荘者が多くなりそうである。